

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	防犯対策に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	11	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	安全対策課			
施策	232防犯対策の促進	担当課室長	小松崎 佳之			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	自主防犯パトロール隊員が、高齢化などにより減少しているため、増加させるための方策を検討しなければならない。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	LED灯導入の推進や、防犯灯管理団体の負担の軽減を図るため、リース化を利用して防犯灯を一括LED化し、市で管理するための調整等を行う。
②①に基づく取り組み結果	29年度中数件の問い合わせがあり、数人が自主防犯パトロール隊に入隊した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	○防犯灯補助金事業:市内自治会等の防犯灯管理団体 ○防犯協会補助金:鎌ヶ谷市防犯協会	意図(対象をどうするのか)	○防犯灯補助事業:夜間の安全確保及び防犯活動の積極的な展開を図ることができる。 ○防犯協会補助事業:防犯協会による市域全体の防犯活動の充実を図ることができる。
②事務事業の概要	犯罪を防止し、安全で安心な地域をつくるため、防犯灯の新設、維持管理の補助や防犯協会との連携を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	防犯施策の推進により、市内の刑法犯認知件数は前年に比べ211件減少しているが、今後も防犯対策を強化する上でも、市が積極的に関与する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	防犯灯の整備により、犯罪の起こりにくい環境が整備されるとともに、市民が防犯協会と連携しながら、自主的な防犯活動が展開され防犯体制が整備された。 東中沢地区5台、東初富地区5台、道野辺中央地区5台、新鎌ヶ谷駅周辺地区2台の合計17台の防犯カメラの適正な運用を行った。また、防犯活動団体による防犯カメラの設置に対する補助制度を整備した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i 刑法犯認知件数		1,089	970	759	件	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算		
事業費(千円)	67,882	76,538	金額(千円)	内容		79,568	
国支出金(千円)			1,739	通信運搬費			
県支出金(千円)	233	293	54,162	防犯灯維持管理			
市債その他(千円)			5,835	防犯協会補助金			
一般財源(千円)	67,649	76,245	11,057	防犯灯新設事業		79,568	

IV 評価・検討

①課題	防犯灯管理団体における維持管理費負担が増加しており、負担軽減への対策を講じる必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	維持管理費の軽減や環境への配慮のため、防犯灯のLED化促進が求められているため、拡充することからリースを活用した一括LED化に向けた調査等を行う。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	平成29年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H28からの繰越
		H28⇒29繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
	平成30年度への繰越額(単位:千円)				

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	夜間防犯パトロール事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	11	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	安全対策課			
施策	232防犯対策の促進	担当課室長	小松崎 佳之			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	今後も市内の犯罪発生を抑制するため、パトロールを継続しなければならない。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	市民からの情報等により、犯罪が起きやすい状況にある地域などのパトロールを重点的に実施する。
②①に基づく取り組み結果	夜間防犯パトロールを含めた防犯対策を継続した結果、空き巣や侵入盗などがH28は前年に比較して減少した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内で発生している犯罪	意図(対象をどうするのか)	犯罪のない安全で安心なまちづくりの実現を目指すため、犯罪の多い夜間にパトロールを実施することで、犯罪件数を減少させる
②事務事業の概要	青色パトロール車2台、2人1組の計4人により市内全域のパトロールを実施する。また、不審者等を発見した場合は、直ちに警察へ通報する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市内の刑法犯認知件数は減少傾向にあるが、安全で安心な生活環境を確保するため、今後も犯罪が起きやすい夜間のパトロールを継続していく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	青色パトロール車2台により、週5日間、1日7時間のパトロールを実施した。 パトロール日数 261日 警察への通報件数 3件					
②成果を表す指標	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i 刑法犯認知件数	1,089	970	759	件	業務取得
	ii					
iii						
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算	
事業費(千円)	10,134	11,907	金額(千円)	内容	12,000	
国支出金(千円)			11,907	夜間防犯パトロール委託		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	10,134	11,907			12,000	

IV 評価・検討

①課題	市内の刑法犯認知件数は減少傾向にあるが、自転車、オートバイの盗難などの件数が依然として多いため、被害の発生に伴い重点パトロール地域の指定などの対策が必要である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民が安全安心な生活を送るためには、市が積極的に防犯活動に係わる必要があるため、精査・検証する必要があることから引き続き犯罪発生区域などの情報収集を行う。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	青色パトロール車2台、2人1組の計4人による市内全域のパトロール	平成29年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	青色パトロール車2台、2人1組の計4人による市内全域のパトロール	12,000	12,000	当初	12,000	11,907	H28からの繰越	
				補正			現年分	11,097
③達成状況	完了							
④未完了・非着手の理由	平成30年度への繰越額(単位:千円)							